

としょかんだより



市立竹原書院図書館
竹原市中央4丁目7番11号
TEL 22-0778
FAX 22-1072

<http://takeharashoin.jp/> 携帯用: <http://takeharashoin.jp/mobile/>

夏休みは親子で図書館へ!!

午前中の図書館児童室は今日も賑わっています。自分が借りる本を数冊持ったお父さんが小学校の五・六年生らしい娘に「帰るぞ!」と声をかけ、そのついでに「五冊までだぞ」と言う。外国の読み物コーナーで物語に熱中していた女の子は「ええ、五冊?」とすでに十冊余の本を選んで持っている。児童室で絵本コーナーの前にいた私は思わず「夏休みだもん、たくさん読めるよねー」と助け舟…

くだんのお父さん、ちよつと渋い顔をして「いやー勉強もしてもらわないと…」とおっしゃるので、すかさず「本も読むけど勉強もするよね」と女の子に:

結局その女の子は十冊以上を自分のカードを出して借りていきました。子どものころの一冊の本との出会いがその人の人生を決めることもあれば、世界を知りきつかけにもなったりする。なによりも時を忘れて読み物の世界を旅することができるのは子ども時代の特権でもある。午後の児童室のソファにお父さんを真中にして、幼児さんと小学生の子どもが絵本を読んでもらっていた。後ろからもたれかかるようにして小学生の女の子が二人覗き込んでいる。一人のお父さんによって、周りの子どもたちまで「幸せの絵本シャワー」をあびている姿に思わず微笑んだ。

絵本は声を出して読むものです。読み手の感情を肉声で感じる感性と言葉の文化です。心に染み込むように優しいお父さんの絵本を読む声が私の心にも染み渡りました。

明日もまた違う親子に会えるでしょう。

ようこそ! みんなの図書館

自動車文庫わかたけ2号 巡回日程

▼第1コース 8/3 9/7	第1木曜日	10:30~11:30
忠海公民館		12:50~13:45
大乗小学校		14:00~14:30
長浜会館		14:45~15:15
福田区民館		15:30~16:15
大乗保育園		
▼第2コース 8/4 9/1	第1金曜日	10:30~10:50
竹原保育所		11:10~11:40
喜多崎集会所		13:30~14:00
高崎城会館		14:30~15:20
忠海西小学校		15:45~16:20
雇用促進大乗宿舎		
▼第3コース 8/10 9/14	第2木曜日	10:30~11:20
吉名公民館		12:50~13:50
竹原西小学校		14:20~14:50
大井公民館		15:20~15:50
宿根生活改善センター		
▼第4コース 8/11 9/8	第2金曜日	10:30~11:00
小梨会館		13:00~14:00
竹原小学校		14:20~14:50
安田病院		15:10~16:15
中通小学校		

▼第5コース 8/17 9/21	第3木曜日	11:00~11:30
三原農協野支店		13:00~14:00
庄野小学校		14:15~15:10
東野保育所		15:20~16:15
東野小学校		
▼第6コース 8/18 9/15	第3金曜日	10:30~11:00
竹原西保育所		13:30~14:20
忠海団地竹原生協		14:40~15:20
忠海東部保育園		15:30~16:20
忠海東小学校		
▼第7コース 8/24 9/28	第4木曜日	10:30~11:30
仁賀小学校		13:00~13:50
田万里公民館		14:15~15:00
老人保健施設ゆさか		15:15~16:15
賀茂川保育所		
▼第8コース 8/25 9/22	第4金曜日	10:30~11:00
吉名保育所		12:50~13:50
吉名小学校		14:00~14:30
吉名沖辺集会所		15:00~15:30
竹原病院		

図書館掲示板

8月の行事予定

えほんのかい

今月のえほんのかいはおやすみです

絵本出前講座

保健センターにて絵本の読み語りと貸し出しを行います。

8月9日(水) 1・5歳児検診

読書会

8月25日(火) 13:30~

市民館2F会議室

今回の課題図書は

『淑女失格』(佐藤愛子)です。

古文書整理

8月26日・27日

キャリア・スタート・ウィーク

8月19日~8月24日

中学生3人・高校生1人が、
職場体験にやってきます。

生徒たちに

声をかけてやってください!

本との出会いのきっかけに

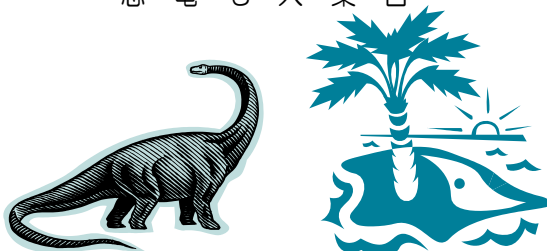
★2階フロア ★☆☆

『また海へ』展

★3階フロア ★☆☆

『かいじゅうとあそぼう』

恐竜も大集合



★3階エレベーター前…作家特集

今月の作家は「石田衣良」です。

★3階図書館入り口 ★☆☆

特別企画展

『こどものとも50周年記念特集』

ベスト5

貸出

東京タワー(リリー・フランキー)
ねこのぼば(畠中 恵)
Happy! 収納&インテリア(ベネッセ)
本当は恐ろしいグリム童話(桐生 操)
歩く人はなぜ「脳年齢」が若いのか?(大島清)

予約

愛の流刑地(渡辺 淳一)
オシムの言葉(木村 元彦)
ブレイブストーリー(宮部 みゆき)
世田谷一家殺人事件(斎藤 寅)
まほろ駅前多田便利軒(三浦 しをん)

ハリーポッターと謎のプリンス(J.K.ローリング)
まじよ子のまほうテスト(藤 真知子)
やさいのおなか(きうち かつ)
ミッケ7(W. ウィック)
かいけつゾロリのおぼけ大作戦(原 ゆたか)

ハリーポッターと謎のプリンス(J.K.ローリング)
子ぎつねヘレンがのこしたもの(竹田津 実)
あのやまこえてどこいくの(ひろかわ さえこ)
あの世からのバトンリレー(木暮 正夫)
空色の地図(梨屋 アリエ)



新刊コーナー



こどものほん

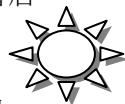
ステラのえほんさがし
すいかシーソー
サーカスのライオン
ねこのパンやさん
きょうりゅうたちががぜひいた
くだものだもの
かえるだんなのけっこんしき
塩の絵本
戦争をくぐりぬけたおさるのジョージ
あこがれ仕事百科
南極コレクション
車いすのカーくん、海にもぐる
七つのぼけっと
ポワロック氏の事件簿
ハーフ
ミロとチャチャのふわっふわっ
宇宙のみなしご
こむぎとにいちちゃん
のんきなりゅう

R・C・エルンスト
くさま ひろこ
川村 たかし
P・シモンズ
J・ヨーレン
石津 ちひろ
J・ラングスタッフ
たかなし ひろき
L・ボーデン
NHK 出版
武田 剛
丘 修三
あまん きみこ
大岩 正幸
草野 たき
野中 柊
森 絵都
吉田 道子
K・グレアム

童心社
新風舎
ポプラ社
徳間書店
小峰書店
福音館書店
光村教育図書
農山漁村文化協会
岩波書店
実業之日本社
フレーベル館
佼成出版社
理論社
新風舎
ポプラ社
あかね書房
理論社
文研出版
徳間書店



おとなのほん



ブックショップはワンダーランド
ピースボート地球一周105日間の船旅
日本の問題よくわからないまま社会人している人へ
数学が教えてくれたお金の法則
セコムが教える防犯プロのアドバイス
災害のあと始末
マダガスカル アイアイのすむ島
アンチエイジング・クッキング
図説江戸三百藩「城と陣屋」総覧 西国編
図説江戸三百藩「城と陣屋」総覧 東国編
子どもたちのインターネット事件
美しい押し花小物
家庭で作れるロシア料理
悦楽バイリンガル子育て
東京ディズニーランド&シーファミリー裏技ガイド
ちいさな手づくり絵本
壁なんて破れる
難儀でござる
ドラママチ
下町の迷宮、昭和の幻
偉いぞ！立ち食いそば
立松和平の日本動物紀行
魔術師のたいこ

永江 朗
四つ葉有志の会
人へ 池上 彰
石橋 省三
セコム I S 研究所
林 春男
島 泰三
白沢 卓二
三浦 正幸
三浦 正幸
長谷川 元洋
杉野 宣雄
荻野 恭子
田村 記久恵
TDL&TDS裏技調査隊
水野 真帆
大日方 邦子
岩井 三四二
角田 光代
倉阪 鬼一郎
東海林 さだお
立松 和平
レーナ・ラウラヤイネン

六耀社
朱鳥社
海竜社
技術評論社
日経BP社
エクスマレッジ
草思社
講談社
学研
学研
東京書籍
日本ヴォーグ社
河出書房新社
主婦と生活社
広済堂出版
毎日コミュニケーションズ
日本放送出版協会
光文社
文芸春秋
実業之日本社
文芸春秋
日経BP社
春風社

他にも新刊がたくさん入っています。どうぞご利用ください。

目で見える図書館データ 時間別貸出冊数

7月23日(日) 時間別貸出冊数

時間	10-11	11-12	12-13	13-14	14-15	15-16	16-17	17-18	計
冊数	78	176	104	105	160	62	39	85	809

郷土資料紹介

「梅颯歌文鈔」 頼 静子著 頼 成一編 昭和16年 婦女会社

頼静子は、頼山陽の母で、“梅颯”は号。夫・春水が亡くなる8日前に病床で“梅颯”の2文字を揮毫し妻に贈り、絶筆となった。「頼静子の主婦生活」(皆川美恵子著)によると、“梅颯”の梅は、春水の春にちなみ、颯とはさっと細かに涼しく吹く風の意なので、水と風の取り合わせもあり春水の妻との絆に寄せる情愛の深さが漂うと書かれている。

この本は、歌人川田順が精選したもので、和歌の部は、天明5年静子26歳の時から天保14年84歳で亡くなる年までの326首、文章の部は、10編が年代順に掲載されている。昭和17年には、「賢母梅颯夫人」(頼山陽先生遺蹟顕彰会)・昭和18年には「頼山陽の母」(吉川綾子)なども出版され、また静子は、59年間にわたり「梅颯日記」を書き残しており、昭和6年「頼山陽全集」にも所収され、頼山陽研究の第一級資料となっている。

大阪生まれの静子の父飯岡義斎は、111か条の「夜鶴草」を書き静子に贈り、その最後に「よの中に道より外ハ何事もすっぽらぼんのぼんにしておけ」と江戸勤務の春水の留守を守る静子を励ました。広島在住の作家見延典子は、梅颯の生涯を「すっぽらぼんのぼん」という題で1冊にまとめている。(南々社発行)

職員からのおすすめの本

『書林逍遥』久世光彦著 講談社 2006.6

今年の春急逝した久世光彦さんはテレビの演出家として「時間ですよ」を始め数々のテレビドラマを制作した人というのは周知のことで、「向田邦子の恋文」や「夏目家の食卓」などはまだ記憶に新しい。この「書林逍遥」は「小説現代」に2004年1月～2006年3月までに掲載されたもので、彼が子どもの頃から文学青年であった時代までに出会ったさまざまな作家とその文章の中で感じたこと、今もなお心のどこかに残る何かを見つめなおした楽しい文である。ちなみにこの本の表題は太宰治の「お伽草子」にまつわるエピソードの最後に次のように書かれている。「冬の日の昏れ方、草を踏んで書林を逍遥すれば、枝々の組み合わせる彼方の空は、折りしもの斜陽に染まって鬱金の色である。残照と、やがてやってくる夜との狭間で、私たちはゆくりなくも『書』について想う——書は<時代>を映し、かつての数々の<恥>を呼び覚ます。特に若い日に読んだ書は厄介だ。……」

なぜか懐かしいそれぞれの初版本の表紙が一緒に紹介されている。